

絆・きずな

夢のふくらむ学校

伝える～いろいろなかたち

前号でお伝えした「音読・漢字・視写・作文」の補習校での実践事例を、いくつか紹介します。



←音読～高学年児童による幼児への読み聞かせ (W校)→

6年生児童は、幼児部の子どもたちに読ませたい本を選んで、家で一生懸命練習してきました。幼児部の子どもたちは、お兄さんやお姉さんの読んでくれる本に興味津々です。読み手の6年生も、日本語の本を一生懸命分かりやすいようにゆっくりと読んでいました。

→高等部生徒の幼児部訪問 (L I 校)←

高等部の生徒は、国語表現の授業の一環として、「かさ地蔵」の紙芝居に合わせて寸劇を披露しました。子どもたちは雪の中の光景を想像しながら、高校生の真剣な演技に見入っていました。



←音読発表会 (L I 校)→

文字どおり、教科書の音読練習を重ね、学級ごとに群読形式で表現するL I校独自の取組です。立派なベイサイドハイスクールの講堂で、幼初等部の園児児童と保護者の前で披露します。練習ではなかなかうまくいかなかったり、緊張したりしながらも、皆で力を合わせて大きな声で発表しました。

→夏休み絵画コンクール (W校)←

言葉ではなく、色とかたちでの表現で思いを伝えることが好きな子どももたくさんいます。夏休み中に見聞した出来事や想像のイメージの中で自由に創造しています。個性豊かな作品群は見応えがあります。



←グループの発表 (W校)→

グループ学習での成果を発表しています。日ごろ発表できない子どもも、グループの中ではしっかりと自分の役割を果たし、参画意識を持って授業に臨みます。自分の意見と周囲の意見をすりあわせ、よりよいものにしていきます。

→コの字型座席配置の工夫 (L I 校)←

教室の座席配置をコの字型にして、子どもたちがお互いの顔を見ながら発表したり話を聞いたりできるようにしています。一人が発表すると、関連した意見、参考意見、反対意見など次々に挙手する子どもを指名していきます。



このように、一口に伝えると言っても、様々な切り口があることが分かります。補習校ではいろいろな手立て、創意工夫を講じて、子どもたちに日本語の語彙やニュアンスを一層深く理解させてまいります。同じように大切なのは、聞く態度です。しっかり聞いて、そこからお互いの意見の交換が始まります。